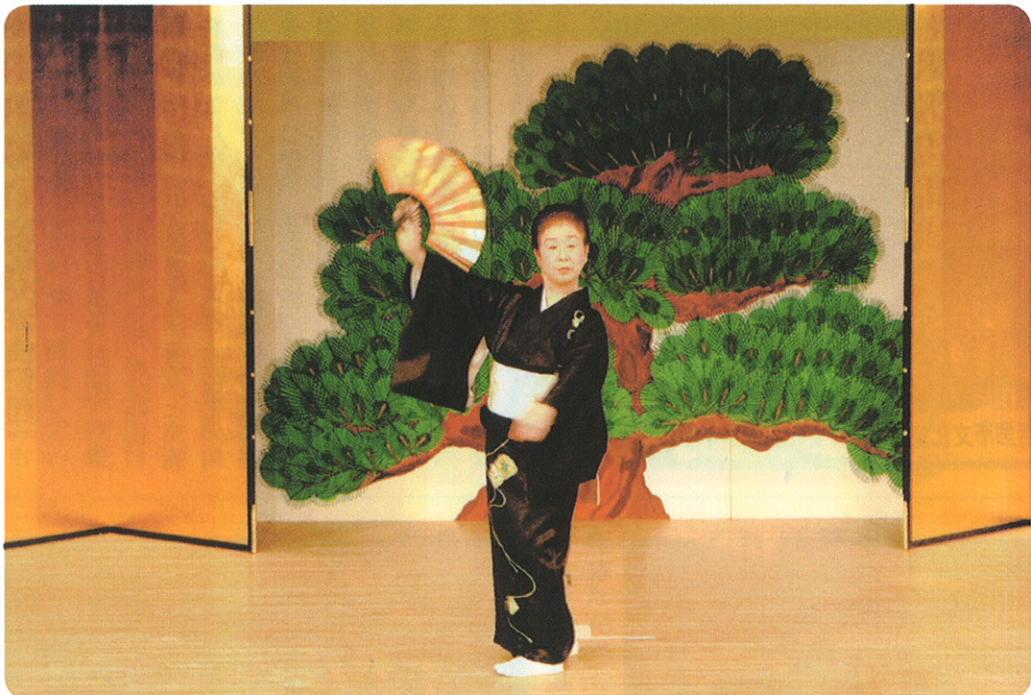


平成23年3月20日

編集 岩国市文化協会
発行 岩国市文化協会

〒740-8585
岩国市今津町1-14-51
岩国市教育委員会
生涯学習課内
印刷(有)国際総合

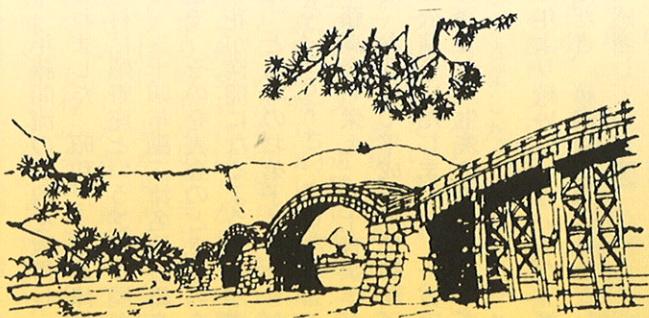
岩国文化



藤間流日本舞踊・新春舞ぞめ会、大和楽「松」を踊る。
(平成17年2月13日、和木町文化会館)

【主な内容】

- 文化協会活動紹介
- 市民文化祭特集
- 文化功労賞等表彰
- 加盟団体紹介
- 行事報告



平成22年度文化協会活動紹介

日本舞踊へのお誘い

■『春の総合文化フェスティバル』
五月二十九日、三十日の二日間、シンボルが開催されました。ステージでは、「美舞奏　日本の心」、「四人のソリストによるデビューコンサート」、「大正琴スプリングコンサート」の演奏など、多くの聴衆を楽しませました。合同作品展では、華道、盆栽、クラフトの力作が並び、来場者の関心を集めました。また両日ともお茶席が設けられ、心のこもったおもてなしが喜ばれました。

八月二十五日～三十日の六日間、ハワイ州ホノルル市を訪問し、ホノルル山口県人会や岩国おどり愛好会の方々と交流を深めました。交流会は地元高校生の和太鼓の演奏で始まり、当協会使節団による琴・尺八演奏、華道実演、歌謡、詩吟、剣舞、民謡、日本舞踊などが披露されました。また体験コーナーでは茶道、書道の実演も行われ大変好評を得ました。

今回の海外交流には様々な部門より六十九名もの参加があり、多彩で有意義な文化交流を行うことができました。



文化交流会の様子



えひめ丸犠牲者の慰靈碑に献花



昭和62年 第36回中国舞踊祭にて、長唄(山)を踊る。

(藤間勘三津記)

昭和三十一年藤間流の名取を取得し、芸名を許されました。昭和三十年通津村だつた頃、村に嬉野座という芝居小屋がありました。三十四年勘三津名取披露をということで、その発表会のとき改名を考え、「藤の花が満開になるよう、会が満ちるよう」と当時のお弟子さんたちが「藤満会」とつけて下さいました。芸一筋に生き、藤満会も栄え、五十有余年が過ぎました。お蔭様で平成四年に師籍三十五周年の公演をいたしました。一言で五十年といつても人生茨の道も多々ございました。

また、昨年より続いているいろいろな立派な賞をいただき、藤満会全員のいたいた賞として感謝しています。ご指導くださいました諸先生方やご支援いただいた皆様に感謝し、一層精進いたす所存でございます。今後、日本舞踊及び藤満会にご参加、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

第54回 岩国市民文化祭

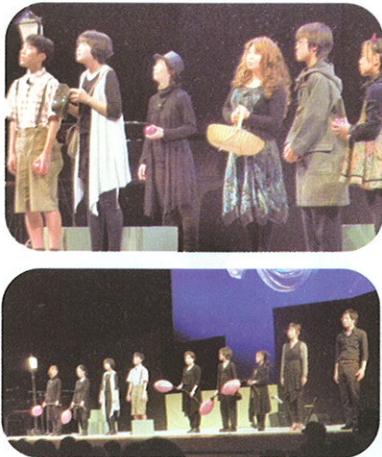
演劇

今年度は宮沢賢治の名作「銀河鉄道の夜」を上演しました。少々難解な原作のため、観客にどこまで受け入れてもらえるか、心配もありましたが、当日は一階がほぼ満席になりました。

主演は中学二年生の徳永君と野川さん、ジョバンニとカンパネラの役を好演し、小学生からベテランまで七人が脇を固めました。ピアノとギターの生演奏、合唱とコロスの解説で銀河の夜を走る軽便鉄道の彼方に人間の愛が美しく表現されました。

一九六〇年五月の劇団創立から五十年間、地方の小都市で一度も欠かすことなく、市民文化祭の公演を行うのは大変な苦労でした。しかし、この偉業を成し遂げた満足感、緞帳の降りた時の達成感とを観客の皆さんに感謝して、これからも頑張っていく決意です。

(田村順玄記)



音楽

音楽部門には、現在八団体が加盟しています。

大正琴、マンドリン、吹奏楽、管楽器、ピアノ等、器楽演奏を主とする様々な団体で構成されています。五十名を超える大編成の合奏から、数名によるアンサンブルの演奏まで、各団体は

様々な特色をもつた独自の活動を行っています。音楽部門としてのまとまった活動が始まったのは、平成十六年度の市民文化祭に部門参加を果たしてからのことです。



歌謡

二十八年前、歌を通じて人間性、歌唱力の向上をはかり、親睦と融和をモットーに発足しました。歌謡教室山鳩を母体に東部歌謡連盟・岩国市歌謡連盟連絡協議会で歌の組織ができあがりました。

それぞれの会の発表会、研修会、春の新春合同発表会、秋の市民文化祭「ふれあい歌の祭典」と様々な行事で協力しています。

歌を歌う人と、聞いて応援してくれる人が一体となって、平和の和、友情の和を大きな輪にして歌謡界の発展を目指しています。明るい街づくり、地域の活性化に貢献し、みんなで一つの目標に向かって努力し頑張っています。

(井原多佳子記)



クラフト

岩国市民文化祭「合同クラフト展」は今年で十五回目になりました。

ちぎり絵、刺繍、押花、フォークアートペインティング、木目込人形と、それぞの手法は違つてはいるものの、手ずからものを作りだすことの楽しさや喜びを共有している五団体が、ひとつになつて毎年開催しています。

その間、同一図案をおのおのの手法で表現してみることにも挑戦しました。

その作品をもつて、倉敷二〇〇五「芸術と福祉」国際会議関連企画展・アーツ&クラフツ倉敷に出展し、大変豊かな経験をしました。

だんだんと手作りをする人が少なくなるていくことを憂いながら、手作りに興味をもつ手がかりになればと、ワークショップにも取り組んでいます。和気あいあいの会です。新しい団体の入会を心よりお待ちしています。

(近藤順子記)



ワークショップ「押花」の様子

(石川善久記)

栄えある受賞 おめでとうございます。

岩国市文化協会では、協会の発展や岩国市の文化振興に功績のあった方々を表彰しています。
平成22年11月3日(祝)に岩国国際観光ホテルに於て表彰式と祝賀会が開催されました。



久能 賞	井原多佳子 菅源 左近 森里 錦雲 岩岡 輝吉 河村 雅葉世 河村 ゆかり 今地 歌湖利 (筑紫琴鳳会)
文化功勞賞	久能賞は、初代会長の久能寅夫先生の 顕彰会からの寄附金を基金として、文化 振興に功績のあった他の模範となる個人 や団体を表彰するものです。
久能賞	三坂 仁 今奥 正雪 保存会 祖生柱松行事 笠塚神楽保存会 岩国琴氣会(岩澤) 工藤 光玉 賀屋 恍山 岩岡ひこばえ 俳句会(片山) 森里 輝吉 石川雅樂世 繁富比呂史 今地歌湖利 藤本秀規誉 河村ゆかり 弘中歌津輝 村本 宗美 山村若津久
文化功勞賞	文化功労賞は、文化振興、協会、加盟 団体の発展に永年貢献し、功績があつた 個人や団体を表彰するものです。
文化功勞賞	個人 井原 多佳子(歌謡教室山鳩) 今奥 正雪(岩国同人俳句会) 菅源 左近(創作舞踊菅源流) 藤本 光玉(光峰流吟道周防地区連合会) 弘中 歌津輝(筑紫琴鳳会) 山村 宗美(社茶道裏千家淡交会) 山村 若津久(山村流若葉会)
文化功勞賞	個人 賀屋 恍山(日本尺八連盟岩国幹部会) 繁富 比呂史(岩国ひこばえ俳句会)
文化功勞賞	個人 江田 保夫(岩国民俗芸能協会) 三坂 仁(周東文化協会)
文化功勵賞	団体 岩国琴氣会 岩国ソシアルダンス研究会 岩国ひこばえ俳句会
文化功勵賞	団体 祖生柱松行事保存会 笠塚神楽保存会 釜ヶ原神樂団 向峠神楽保存会 谷津神楽舞保存会
文化功勵賞	敬称略

文化奨励賞

文化奨励賞は、芸術文化の分野で高い評価を受け、今後の活躍が期待される個人や団体を受け、今後の活躍が期待される個人や団体を受けます。

● 岩国市文化協会表彰 ●

団体を表彰するものです。

石川 雅葉世 (生田流正派桐朋会)	河村 ゆかり (ミュージカルファクトリークリスマスクス)
今地 歌湖利 (筑紫琴鳳会)	鶴崎 宗朝 (社茶道裏千家淡交会)

● 岩国市教育委員会表彰 ●

岩国市文化協会に所属されている受賞者の方々。

文化功勞賞は、文化振興、協会、加盟団体の発展に永年貢献し、功績があつた個人や団体を表彰するものです。

岩国市文化協会に所属されていない受賞者の方々。

文化功勞賞

岩国市文化協会に所属されていない受賞者の方々。

短歌部門 青潮短歌会

私たちの短歌会は、昭和二十一年五月に歌人橋本武子により歌誌「青潮」を創刊し今日に至っています。会員数は約三百名で歌誌のバックナンバーは三百号を超えました。

歌誌「青潮」は隔月刊で、月一回の支部会では作歌の指導や勉強などを行つており、岩国本部を中心に山口県全域および東京、大阪、広島等に二十五支部を開設しています。

今年は歌誌創刊六十五周年記念短歌大会を開催し、講演会や各種表彰等を企画しています。歌誌「青潮」は作品発表の場とし、作品評、添削教室、歌論、各地の大会や新聞、短歌雑誌の入選者の紹介などを掲載しています。短歌をはじめの方のため支部ごとに門戸を開いており、岩国祭前夜祭をはじめイベントや発表会、慰問等に力を合わせて活動しています。親睦旅行もあり楽しみの中にも緊張感のある日々です。民謡や三味線の好きな方や興味のある方は一緒にお稽古しましよう。お待ちしています。

(弘兼安雄記)



団

民謡部門 藤本流秀規誉会

本会は昭和四十四年に通津民謡クラブに始まり、海土路・川下・大畠の各教室を開設、平成五年に、藤本流秀規誉会として発足しました。

日本民謡藤本流の三味線を主体として、心のふる里といわれる日本各地の民謡、日本古来の俗曲、端唄、歌謡曲、童謡、最近では洋曲にもチャレンジしています。

民謡のもつ独特の節まわしや雰囲気、あたたかさ、伝統文化の粹、わび・さびを味わうとともに、歌謡曲や童謡のなつかしい唄や思い出の唄を和楽器三味線の伴奏でお稽古しています。六歳から八十八歳までの会員が市民文化祭、岩国祭前夜祭をはじめイベントや発表会、慰問等に力を合わせて活動しています。親睦旅行もあり楽しみの中にも緊張感のある日々です。民謡や三味線の好きな方や興味のある方は一緒にお稽古しましょう。お待ちしています。

(藤本秀規誉記)

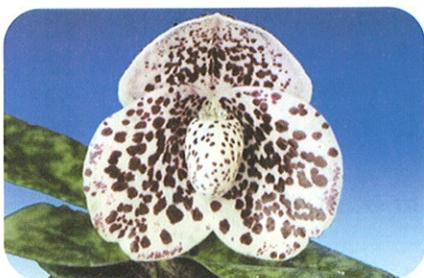
体

盆栽部門 岩国蘭友会

昭和四十四年、岩国地域の洋ラン愛好家が集まって結成。二ヶ月に一度、市民会館において、ランの栽培技術講習会、人気コンテスト、交換会などを行っています。目的に副つたり、はずれたり、和気あいあいの定例会を開いています。

一年の総決算として一月に「新春洋洋展」をシンフォニア岩国にて開催。優雅な花容と芳香、草姿などに市民の皆様から大変好評を博しています。そして最近は、植物の栽培や蘭の醸し出す甘い香りで、心身の疲れをとる効果も話題になっています。自分で育てた株が見事開花した時の感動を一人でも多くの方に喜んでもらえるような岩国蘭友会を目指しております。

(土屋賦雄記)



日本蘭協会において2010年度 年間最高得点を獲得された岩国蘭友会の会員さんの作品です。(パフィオペデラム)

紹

介

映像部門 写団「のら犬」



作品と受賞者の紹介

文化協会行事報告（平成22年度）

文化協会役員紹介（平成22年度）

編集後記



洞泉寺・紅白の梅

写真・久村展康

会員増強のため、新聞折り込みの情報誌一面に、「初心者入門セミナー」のお知らせを掲載し、市内六万世帯に会員募集のPRを行いました。

『入門セミナー』会員募集

平成22年	5月8日	第一回理事会	顧問	福田 良彦
	5月29日	春の総合文化フェスティバル	名誉会長	佐々生君子
	5月30日	市民文化祭総合開会式	会長	藤谷 光信
	7月11日	第一回企画委員会	副会長	安東 栄一
	7月21日	第一回事業委員会	理事長	岩見屋 健
	7月24日	第二回理事会	常務理事	廣重 光風
	8月17日	久能賞選考委員会	理事	元島 祥次
	8月25日	設立五十五周年記念事業		江村 恒子
	8月30日	ハワイ文化交流大使節団		小國 正巳
	11月3日	岩国市文化協会文化功労賞等		井原多佳子
平成23年	11月16日	第一回編集委員会		近藤 順子
	12月19日	第三回理事会		藤永 具視
	2月22日	第四回編集委員会		篠原 芳弘
	1月11日	第二回編集委員会		田村 順玄
	2月1日	第三回編集委員会		中村 源治
	2月22日	第四回編集委員会		二宮 瑞穂

監査	堀 堀	米 光	山 吹	半 田	宮 崎	藤 永	藤 間 勘	藤 本 秀	浜 村	中 村	近 藤	江 村	元 島	石 川	松 藤	元 島	廣 重	顧 問
	賀 屋	豊 輝	駿 風	好 雄	千 穂	裕 美	三 津	規 誉	瑞 穗	信 子	順 玄	恒 子	祥 次	多 佳 子	善 久	多 佳 子	光 風	良 彦

（平成二十三年三月一日現在）

このほか、協会行事として、春の総合文化フェスティバル開催、入門セミナーの会員募集など昨年同様実施いたしました。なお、地区公演事業は、実施しませんでした。
団体紹介では、青潮短歌会、藤本流秀規誉会、岩国蘭友会、写団「のら犬」の四団体にご登場願いました。それぞれ、各団体の暖かい協力を賜り、感謝しております。
加えて、今号から市長賞を受賞した作品の一部を登載させていただきます。
今後とも本「会報」へのご協力、ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。
なお、会報の編集や記事に関し、皆様方から忌憚のないご意見・ご感想をいただきたいと存じます。ご投稿をお待ちしております。

（編集委員）久村、吉村、武重、元島）

《岩国市俳句大会（十月二十四日開催）》
市長賞 岸添 和子
「誰の手も 借りぬ幸せ 髪洗ふ」

《岩国市短歌大会（十月二十四日開催）》
市長賞 二宮 信子
「みひらける瞳がしんとかがやきぬ
記憶もつれし夫のたまゆら」

《岩国市川柳大会（十月二十三日開催）》
市長賞 森上 牙人
（川柳大会は五つの課題に順位があり、市長賞は合計が最高得点の人与えられます。）

岩国市文化協会加盟の皆様のご理解ご協力により、「岩国文化」も5号を迎えることができました。心より厚くお礼申し上げます。
よく「文化のジャンルはどこまでか」が話題になります。平成十三年二月制定の「文化芸術振興法」によると落語、漫談などの演芸は勿論、囲碁、将棋など国民娯楽にまで幅広く及んでいます。
三十年前、当文化協会でも歌謡部門の入会にあたって「カラオケも文化か」の議論がありました。昨年の文化功労賞にこの部門の理事・井原多佳子さんが受賞され、ようやくスポットライトが当てられました。
今回の表紙は、一昨年、山口県文化功労賞を受賞された藤間流藤満会代表・藤間勘三津さんに登場していただきました。伝統ある日本舞踊の艶やかな舞姿をご覧ください。
今年度は、文化協会五十五周年記念行事として、ハワイ文化交流事業を行い、邦楽、民謡、茶華道など六十九名の参加がありました。今回の市民文化祭の記事では、演劇、音楽、歌舞、クラフトの各部門に分担していただきました。

このほか、協会行事として、春の総合文化フェスティバル開催、入門セミナーの会員募集など昨年同様実施いたしました。なお、地区公演事業は、実施しませんでした。
団体紹介では、青潮短歌会、藤本流秀規誉会、岩国蘭友会、写団「のら犬」の四団体にご登場願いました。それぞれ、各団体の暖かい協力を賜り、感謝しております。

加えて、今号から市長賞を受賞した作品の一部を登載させていただきます。
今後とも本「会報」へのご協力、ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。
なお、会報の編集や記事に関し、皆様方から忌憚のないご意見・ご感想をいただきたいと存じます。ご投稿をお待ちしております。